

会 議 録

会議の名称	平成30年度第1回行田市総合教育会議
開催日時	平成30年7月27日（金） 開会：午前10時00分　閉会：午前11時30分
開催場所	行田市産業文化会館　第2会議室
出席者（委員） 氏名	工藤正司市長、鈴木トミ江教育長、岸田昌久委員、 鹿山高彦委員、増田雅久委員、大久保英子委員
欠席者（委員） 氏名	なし
事務局	学校教育部：門倉学校教育部長、荻原学校教育課長、 諸貫教育総務課長、櫻井学校教育部副参事 金野学校教育課主幹、白井教育総務課主幹 生涯学習部：吉田生涯学習部長 健康福祉部：夏目健康福祉部長、増田福祉課長、 上野子ども未来推進幹 総合政策部：樋口総合政策部長、岩田企画政策課長、 川上企画政策課主幹、渋澤企画政策課主任
会議内容	議事 （1）平成30年度の教育施策について （2）学校の適正配置について （3）児童・生徒への学習支援について （4）その他
会議資料	<ul style="list-style-type: none"> ・ 会議次第 ・ 総合教育会議構成員名簿 ・ 総合教育会議席次表 ・ 資料1　平成30年度行田市教育行政重点施策 ・ 資料2　学校の適正配置についての関係資料 ・ 資料3－1　児童・生徒の学習支援事業について ・ 資料3－2　子どもの学習支援事業について ・ 資料4　学校におけるブロック塀等の状況について ・ 資料5　小学生の足袋を履いた学校生活について ・ (参考資料)　行田市教育大綱 ・ (参考資料)　行田市総合教育会議設置要綱
その他必要 事項	傍聴者　3名

発 言 者	会議の経過（議題・発言内容・結論等）
司 会 司 会	1 開会 2 市長あいさつ 3 教育長あいさつ 4 議事
議 長	<ul style="list-style-type: none"> ・続いて、次第の3「議事」に入る前に、会議の公開・非公開に関する取扱いについて確認させていただく。本日の会議は、議事の中で個人情報を取り扱う予定がないことから、原則公開とさせていただく。また、会議録の作成は要点筆記とし、委員名を明記の上、市政情報コーナー及び市ホームページにおいて公開させていただく。 ・それでは、本日の「議事」に入る。進行については、要綱第4条第1項の規定により、会議の議長は市長が務めることとなっていることから、ここからは工藤市長に議事の進行をお願いする。
議 長	<ul style="list-style-type: none"> ・それでは、暫時、議長を務めさせていただく。はじめに、議事の（1）「平成30年度の教育施策」について、事務局から説明をお願いする。
事 務 局	<p><資料1により説明></p>
議 長	<ul style="list-style-type: none"> ・ただいま事務局から「平成30年度の教育施策」について説明があったが、ご意見やご質問があればお願いします。
岸田委員	<ul style="list-style-type: none"> ・行田市では過去15年の取り組みとして、校地内禁煙の実施、全国に先駆けた30人学級の編制、構造改革特区による小学校での英語教育など、市として先駆的な取り組みを推進してきている。また、教室へのエアコン導入、トイレの改修など、今となっては当たり前の整備を数年も前から行っている。 ・いずれも、総合的に取り組んでいるというのは素晴らしいことである。今後は、整えられた環境を活かして、市一丸となり教育のソフト面の充実を図っていただきたい。
大久保委員	<ul style="list-style-type: none"> ・今年度は産業文化会館の改修に伴い、会館利用予定であった各種イベントの前倒し実施や時期変更など、柔軟に対応していただいた。来年度は総合教育センターみらいの改修が行われる予定だが、こちらについてもイベント等実施時期の変更を行う予定なのか。
事 務 局	<ul style="list-style-type: none"> ・現在、各所管課へ情報提供を行い、実施会場の変更又は実施時期の変更について依頼している。詳細については現在検討中である。

大久保委員	<ul style="list-style-type: none"> ・産業文化会館改修時には、柔軟に日程調整をしていただいたと先生方からも聞いている。みらいの改修時にも適切に対応してほしい。
議 長	<ul style="list-style-type: none"> ・事前に工事期間が把握できているのであれば、早めに対応していく必要がある。
事 務 局	<ul style="list-style-type: none"> ・承知した。
鹿山委員	<ul style="list-style-type: none"> ・教育行政重点施策の中に「食育の推進」とあるが、健康と学力向上には「食」が非常に重要であり、重点施策とされたことは大変よいこと。 ・足袋の健康面への調査を行っていると思うが、いつごろ調査結果が出る予定か。
事 務 局	<ul style="list-style-type: none"> ・東小学校において、学校生活に足袋を着用し、その効果の検証に関する調査を行っている。来年の3月に結果がまとまる予定である。
議 長	<ul style="list-style-type: none"> ・結果次第では、市内全学校での実施や全国的な教育施設への導入が期待できる取組みである。
増田委員	<ul style="list-style-type: none"> ・I C T先進モデル校を視察した際、タブレット端末を用いて子どもたちがいきいきと積極的に学習に取り組んでいたのが印象的であった。こうした端末を利用したほうが、現代の子どもたちには馴染みやすく、無理なく学習環境の充実が図られるのではないかと感じている。
岸田委員	<ul style="list-style-type: none"> ・少年の主張大会は長年継続して実施しているが、内容の工夫が行われるなど改善されている。 ・郷土かるたについても、南河原村との合併に伴い内容の見直しを行うなど、改善が行われているのは大変よいことである。
議 長	<ul style="list-style-type: none"> ・ハード面についてはある程度整ったので、今後はスピード感を持ってソフト面の充実、教育の充実を図っていく必要がある。教育は学力の向上を目指すことだけがすべてではないが、整えられた施設環境を活かして、今後は「教育の質」のより一層のグレードアップを目指してもらいたい。

議 長	・次に、議事の（２）「学校の適正配置」について、事務局から説明をお願いする。
事 務 局	＜資料２により説明＞
議 長	・ただいま事務局から「学校の適正配置」について説明があったが、ご意見やご質問があればお願いする。
岸田委員	<ul style="list-style-type: none"> ・北河原小学校では、平成１８年から複式学級となっており、過去１０年以上に渡りこうした状況であったということを確認してほしい。また複式学級については、通常、授業時間の半分をその学年の授業とし、もう半分は他の学年の授業のため自習としているが、行田市では、複式対応の非常勤講師を配置し、複式でも学年を分けて、それぞれ授業を実施している。そのようなことを市民にも知ってもらう必要があるのではないか。 ・平成２０年に開催された行田市公立学校通学区域等審議会において答申された行田市公立学校の通学区域及び統廃合について（答申）では、「地域の方々の理解を得ること」とされており、地域の皆さんの協力は不可欠であることから、複式学級であるという状況も考慮して、最善の策を考えてもらいたい。 ・学校の統廃合については、計画的に一步一步着実に実行に移してもらいたい。
鹿山委員	・学校の数が減るということは、県費負担教職員が減り、市費負担教職員が増えるということか。
事 務 局	・学校の規模、クラス数等に応じて県費負担教職員の数が決まっているため、必ずしも市費負担教職員が増えるわけではない。
岸田委員	・複式学級となる人数は何人か。
事 務 局	・２年生以上では、２学年合わせて１６人以下になると複式学級となる。
岸田委員	・子どもの数が減るということは、教職員の数も減るということである。現在、市では複式学級の学校に対し、市費負担の非常勤講師を配置しカバーしているという状況である。
増田委員	・学校再編に向けては、過去にも議論された経緯があるが、地域の住民の理解を得ることが最も重要である。具体的な数字や客観的

<p>大久保委員</p>	<p>な事実を示し、現在の状況を丁寧に説明、理解いただいたうえで進めてもらいたい。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小規模校にもメリットはあると思うが、将来的に大人数の中での教育を受けることになった場合に、周囲の環境への適応や友人関係の構築などが難しくなるケースも考えられる。集団生活の実践という観点からも、ある程度の規模で学校生活を送ることなど、子どもの目線に立った改善が必要であると考えます。 ・各地域の文化祭においては、地域の交流も垣間見られた。特に、小規模な地域公民館では、地域の皆さんが和気あいあいと活動されているところが多いと感じている。しかし、どの地域でも若い世代の参加が少なく、子どもたちの教育を守るためにも、若い世代を対象とした施策を推進してもらいたい。
<p>議 長</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・人口減少については、全国規模の問題であり、ほとんどの自治体が頭を悩ませている。市では今年度より「移住・定住コンシェルジュ」を配置し、若い世代の移住・定住を促進するような施策を推進している。 ・地域の皆さんの理解と協力は不可欠ではあるが、一番に考えなければならないことは、教育を受ける子どもたちである。子どもたちの将来につながる方策を考えていく必要がある。 ・学校の適正配置については、本市の重要な課題である。今回初めて公の場で将来推計が示されたわけだが、引き続きこの総合教育会議の場においても議論していきたい。
<p>議 長</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・次に、議事の（３）「児童・生徒への学習支援」について、事務局から説明をお願いします。
<p>事 務 局</p>	<p style="text-align: center;">＜資料３－１、３－２により説明＞</p>
<p>議 長</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ただいま事務局から「児童・生徒への学習支援」について説明があったが、ご意見やご質問があればお願いします。
<p>岸田委員</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・きらきらサポーターや適応指導教室ウイズについても学習支援に挙げられるのではないかと。 ・市内でもサマースクールが行われている。民間の学習塾に通いたい希望があるが、さまざまな事情によって通うことのできない児童・生徒の把握状況についてはどうか。

事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・きらきらサポーターについては、障害のある児童・生徒の学校生活における補助がその主目的であるため学習支援には挙げていない。 ・ウイズについては、学習支援に挙げられると考える。 ・学習塾については、特に中学校においてかなりの割合の生徒が通っていると認識している。通うことのできない生徒へのサポートについては、学校ごとにサマースクールとは別に個別補習等を行うことにより対応している。
岸田委員	<ul style="list-style-type: none"> ・きらきらサポーター、ウイズともに市の特長的な取組みである。ぜひ今後も推進してもらいたい。 ・学習塾について、経済的な理由により他生徒との差が生まれてしまうのは子どもたちに対しても申し訳ない。適切な配慮を考えなければならない。
議長	<ul style="list-style-type: none"> ・ウイズでの学習指導により、無事に高校進学を果たせたという事例も聞いている。
鹿山委員	<ul style="list-style-type: none"> ・算数の授業等、1クラスを2つに分けた授業への取組みを行っているとのことだが、分ける際の統一基準はあるのか。
事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・特に基準はない。少人数のほうが個々の習熟度を高められるとの認識に基づいた学習支援の取組みである。
鹿山委員	<ul style="list-style-type: none"> ・今後は、学力別や昨年の総合教育会議で紹介した男女別等にすることで、より適切な指導が可能となるのではないかと。
増田委員	<ul style="list-style-type: none"> ・私自身も学生時代、学力別授業を受けとてもよかったと感じている。学力別にすることできめ細やかな指導が可能になる。 ・健康福祉部の行う学習支援事業について、居場所の提供を行っているとのことだが、そこで得られた児童・生徒の相談内容や近況については、各学校へ情報提供を行っているのか。せっかく市として、学習面に問題のある子どもへの居場所の提供を行っているのであれば、支援の場で得られた情報によって、いじめの早期発見や学校環境の改善にもつながるのではないかと。
事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・現在のところ、学校への情報提供までは行っていない。 ・学習指導員は学校長の経験者が多く、サポートも的確に行えるものと認識している。ご意見を参考に、今後検討する。

議 長	・次に、議事の（４）「その他」とあるが、事務局から何かあるか。
事 務 局	＜「学校におけるブロック塀等の状況」について、 資料４により説明＞
議 長	・危険箇所については、早急に対応していかなければならない。 ・その他に、事務局から何かあるか。
事 務 局	＜「小学生の足袋を履いた学校生活」について、 資料５により説明＞
議 長	・東小学校での足袋生活は素晴らしい取組みである。今年の１０月からは各家庭による選択制になるとのことだが、せっかくモデル校として足袋生活を導入したにもかかわらず、１年で止めてしまうのは疑問に思う。国の補助金による足袋配布の終了によって、保護者負担となることでこのような選択制となったと思うが、ぜひとも学校での足袋生活を続けてほしい。この点について、教育委員会としてはどのように考えているのか。
事 務 局	・本市の文化や伝統を知り、郷土愛を育む方策を研究することが重要であると考えている。足袋生活の検証結果が来年３月に発表されることから、結果を見て、場合によってはアンケート調査等の実施について検討したい。 ・市が足袋を児童に支給する場合、初回配布分のみで東小学校だけで約２５０万円ほどの予算がかかる見込みである。今後については、配布経費も勘案した上で検討する。
議 長	・市内の全小学校への導入を目指すべきであると考えている。
岸田委員	・足袋の海外進出についてお伺いしたい。
事 務 局	・日本遺産への認定や「足袋のまち行田」活性化プロジェクトといった取組みを行う中で、足袋の販路拡大や新商品開発といった産業的な面をも含めたまちづくりを推進している。 ・国内のみならず国外へも行田の足袋を発信するという目的で、フランス・パリで７月５日から４日間にわたって開催された「Japan Expo 2018」に参加し、足袋の販売、行田市のPRを行ってきた。
岸田委員	・足袋の世界進出といった華やかな面も子どもたちや市民に広く伝えてもらいたい。

議 長	<ul style="list-style-type: none"> ・「Japan Expo 2018」については、テレビ、マスコミ報道等も行われていた。従来の枠に捉われない、世界に打って出るような足袋も考案されている。こうしたものに関しては、行政としても積極的に応援していきたい。
鹿山委員	<ul style="list-style-type: none"> ・日中暑くなる時期が続くが、体育館での活動もまだまだ行われる。子どものほうが体感温度が高いということもあり、熱中症への対策は必須になると思うが、環境省が公開しているような対策マニュアル等は整備されているのか。熱中症予防とその救護策についての周知はどうか。
事 務 局	<ul style="list-style-type: none"> ・環境省のマニュアルについては確認し、学校で有効に活用できるものを整備したい。
議 長	<ul style="list-style-type: none"> ・市内小中学校では、2～3人が熱中症になったとの報告を受けている。いずれも軽症であるとのことだが、この暑さへの対応をしっかりと行ってほしい。 ・先日、政府による小・中学校へのエアコン設置への財政支援等の検討が行われているとの報道があった。この点に関しては、行田市では先を見据えた対策が取れたと感じている。
岸田委員	<ul style="list-style-type: none"> ・国の支援が始まるとはいつても、今後の整備完了までは多くの時間がかかる。市のスピード感ある取組みは素晴らしいと思う。
大久保委員	<ul style="list-style-type: none"> ・児童に配布している足袋について、汚れたものは家庭で洗ってまた持参するとのことだが、洗濯のしやすさ等はどうか。
事 務 局	<ul style="list-style-type: none"> ・一度に4足配布していることから、洗濯等についても問題ないものと考えている。
議 長	<ul style="list-style-type: none"> ・その他、教育委員の皆様から何かあればお願いする。
委 員	<p><特になし></p>
議 長	<ul style="list-style-type: none"> ・それでは、これにて議事を終了する。教育委員の皆様には、スムーズな議事進行にご協力賜り、ありがとうございました。 ・これをもって議長の職を解かせていただき、事務局に進行をお返しする。

司 会

- ・次回の総合教育会議は、秋に開催を予定しており、学力検査の結果を踏まえた学力向上について等を議題として考えている。
- ・以上をもって、行田市総合教育会議を閉会とする。

< 閉 会 >